

2025年6月12日
インターステラテクノロジズ株式会社

小型衛星打上げロケットZEROを開発するインターステラテクノロジズ 北海道大樹町と打上げに向けた基本合意書を締結 ー北海道スペースポートの新発射場 Launch Complex1の優先事業者に選定ー



ロケット事業と通信衛星事業を通じた宇宙の総合インフラ会社を目指すインターステラテクノロジズ株式会社（本社：北海道広尾郡大樹町、代表取締役 CEO：稲川貴大、以下インターステラテクノロジズ）は2025年6月12日、北海道スペースポート（以下HOSPO）を所有する北海道大樹町（町長：黒川豊、以下大樹町）と、人工衛星打上げ用の新発射場 Launch Complex1（以下LC1）の優先事業者として、打上げに向けた基本合意書を締結しましたので、お知らせいたします。両者は今後、詳細契約に向けた協議を進めます。

東と南に打上げ可能な、世界トップクラスの利便性を有する宇宙港

大樹町は、ロケットを打ち上げる東と南方向に海が広がること、広大な土地による発射場の拡張性の高さ等の地理的優位性があることから、1985年から40年にわたって航空宇宙産業の誘致を進めてきました。インターステラテクノロジズは2013年、大樹町を本社に事業を開始。2016年より大樹町とHOSPO内の発射場兼実験場 Launch Complex0（以下LC0）の利用に関する契約を結び、2019年と2021年にはLC0から打ち上げた観測ロケットMOMOが、計3回の宇宙空間到達を達成しています。

HOSPOは民間にひらかれた商業宇宙港であり、顧客の多様な軌道に対応でき、東京からのアクセスにも優れた、世界トップクラスの利便性を有する点が特徴です。大樹町はLC0に続く次のロケット発射場としてLC1を整備しており、2024年12月にLC1での打上げ事業者を公募する情報提供要請（RFI=Request for Information、*1）を実施しました。

本合意書は要請に応じた国内外9社のうち、小型人工衛星打上げロケットZEROを開発するインターステラテクノロジズが、LC1における「最も計画の確度が高い事業者」として評価されたことに基づき締結しました。インターステラテクノロジズは今後、推進剤プラント設備や発射台などZERO打上げ用設備の整備を進めるとともに、LC1竣工後早期の打上げを目指してZERO開発に邁進してまいります。

*1 北海道スペースポートLC1運用計画策定に向けた情報提供要請 <https://hokkaidospaceport.com/news/1600>

北海道大樹町長 黒川 豊 氏 コメント

当町がLC1の運用計画策定のため昨年実施したRFIにより、インターステラテクノロジズ社を最も確度が高い事業者様と評価したことから、このたび、本合意書を締結させていただくこととなりました。これによって、当町が整備を進めている民間に開かれたロケット発射場LC1を、町内に本社を構え、また、当町が長年続ける“宇宙のまちづくり”においても日頃からご協力いただいている同社に、LC1竣工当初よりご利用いただく見込みとなります。ロケットの開発から打上げまでが大樹町内で完結するまさに“大樹町産ロケット”がLC1から打ち上げられる未来を想像すると、うれしさと感慨の念に堪えません。当町は、北海道スペースポートを核とした宇宙版シリコンバレーの実現へ向け取り組みを加速させ、宇宙のまちづくりによる地方創生を進めてまいります。

インターステラテクノロジズ株式会社 代表取締役CEO 稲川 貴大 コメント

このたびはLC1における最も計画の確度が高い事業者として評価いただき、基本合意書を締結いただいたことを大変光栄に思います。インターステラテクノロジズは大樹町で事業を開始して以来12年間、観測ロケットMOMOを含む計18回の打上げをはじめ、数々の試験等の実績を町内で着実に積み上げてまいりました。ここまで事業を継続・拡大できたのも、ひとえに大樹町様および地元の皆様の長年にわたる協力と応援があってこそと考えております。北海道スペースポートは東と南に打上げが可能な、顧客にとっても利便性の高い発射場です。インターステラテクノロジズは日本の民間宇宙輸送のリーディング企業として、現在開発している小型人工衛星打上げロケットZEROのLC1からの打上げを通じ、日本の宇宙輸送能力の維持・拡大に貢献するとともに、HOSPOを核とした宇宙のまちづくりにより一層寄与してまいります。

《インターステラテクノロジズ株式会社 会社概要》

インターステラテクノロジズは、「誰もが宇宙に手が届く未来」をビジョンに掲げ、「世界で選ばれる宇宙のインフラをつくる」をミッションとして、国内初のロケット事業と通信衛星事業の垂直統合ビジネスを目指しています。2013年に北海道大樹町で事業を開始、観測ロケットMOMOで国内民間企業単独として初めての宇宙空間到達を達成しました。現在は、小型人工衛星専用の宇宙輸送サービスを提供するロケットZEROを開発しています。北海道大樹本社の他、東京都、福島県、北海道帯広市に支社を有しています。

所在地： 北海道広尾郡大樹町字芽武149番地7

代表者： 代表取締役 CEO 稲川 貴大

事業内容：ロケットの開発・製造・打上げサービス、人工衛星の開発・製造・運用サービス

<https://www.istellartech.com/>